「山野小学校の石井鎌手踊り伝承活動の取組」

１　学校名

伊佐市立山野小学校

２　学年・人数

第５学年（９人）・第６学年（９人），計18人

３　日時・場所

⑴　練習の日時・場所

令和３年11月～令和４年２月　総合的な学習の時間（本校体育館）

⑵　発表の日時・場所

令和４年３月２日（水）　　山野小学校学習発表会

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

⑴　名称

石井鎌手踊り（いしいかまんておどり）

⑵　由来

伊佐市山野の石井地域に古くから伝わる伝統芸能である。由来は様々な説があるが，1590年豊臣秀吉が天下統一後の朝鮮出兵（1592年島津義弘公）から帰ってきたときに，伊佐市山野地区の住民が，太鼓踊りなどで歓迎し出迎えたのが始まりとされている。戦後（昭和25年頃）から写真に残されており，当時は「６尺棒に６尺棒」「６尺棒に鎌」の踊りであった。1950年頃には男性不足から女性が踊ったこともある。なお，現在の「鎌と長刀」のスタイルは1960年頃から踊り継がれているようである。

⑶　構成等

鎌２人，長刀２人の４人組が４グループ，合計16人で踊る。鎌は柄の長さ１尺５寸位，柄のつけ根のカネには房をつける。長刀は柄が５尺２～３寸，房はつけない。どちらも樫の木で作る。服装は白浴衣，腰を少しつぶり，手甲，脚絆，白足袋，武者ワラジ，タスキ，鉢巻姿といういで立ちである。歌詞は，出端の道歌「今こそ参る，神にモノメイ（物参り）」にはじまり，中「清めの雨は，三度パラパラ，焼け野の雉は岡の瀬にすむ」とあり，引端の道歌には「今こそかへる。神にモノメイ」と歌われている。

５　保存会や地域との連携の具体

５年前から総合的な学習の時間を活用し，郷土芸能に関する学習の取組を進めてきた。保存会の会員の高齢化に伴い，存続か消滅かといった後継者問題に直面している状況であった。現在，山野小では保存会の方々と連携を図りながら，地域の伝統芸能の保存に向け，無理をせず長期的視野に立ち，取り組んでいく方向で活動を進めている。

６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地域の伝統芸能継承学習として，総合的な学習の時間の中で「山野の宝を受け継ごう」というテーマの下，年19時間の授業を設定した。

主な学習内容は以下のとおりである。

⑴　課題を設定する。（２時間）
⑵　保存会の方から踊りの歴史や伝承活動に対する願いを学ぶ。（２時間）
⑶　踊りやたすきがけについて実際に指導を受ける。（８時間）
⑷　調べたことをまとめる。（２時間）
⑸　学習発表会で発表する。（２時間）
⑹　地域に伝わる伝統芸能の継承について学習する（３時間）

７　取組の様子（練習状況，発表の場等）

【保存会の方々による指導】

【学習発表会での発表】

８　参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【６年生児童】

「えいへいさ！」とみんなと声を合わせながら，踊りました。「もしかしたら保存会の方たちに習う練習は最後かも。」と先生が言いました。ぼくはまちがえていたところが一か所あったので，それに気付けたのでよかったです。いろいろなことをまた教えていただいたので，まだまだ伝統の踊りを強化していきたいです。

【教職員】

鎌と長刀で踊る鎌手踊り。調べてみると島津義弘公の時代に始まったとのこと。長い歴史の一部分がこの山野小校区石井集落に残っていることに驚かされました。歴史と文化に触れる機会をいただけたことに感謝しながら，今後も地域の伝統芸能を引き継いでいけたらと思います。

【保存会から】

保存会の会員が高齢化し，保存会の踊りの練習も限界を感じることがある。子どもたちが踊りを引き継いでくれることに心強さを感じる。地域の方々にも喜んでいただいている。これからも継続して活動に協力していきたい。

【地域の方から】

毎年必ず山野小学校の高学年が鎌手踊りを披露してくれるので楽しみにしている。小学生の皆さんが地域の伝統を引き継いでくれているのがうれしい。先生方，保存会の方々も指導が大変だと思うが今後もぜひ続けてほしい。